



かどや通信

第36号

発行日：令和2年1月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

百人一首で正月気分！ 世代を超えてかるたに熱中

かどやでは日本の伝統的な行事を次世代に繋げようと様々なイベントを実施している。「かどや新春かるた会」百人一首を楽しもう！もそのひとつで、一般公開以降、毎年開催している。

《老若男女が和気あいあい！》

今回で七回目を数える令和初回のかるた会は一月十二日に行われ、十人が参加した。団塊の世代(昭和二十年代生まれ)の常連組に加えて、昨年参加の百人一首が大好きな小学二年生と彼の姉でしっかりとるの五年生、ホームページを見てやって来た成人男性、それに、常連組



の妹たちも参加した。初対面の人であり、小学校の同窓生で卒業以来の



再会あり。まさに老若男女入り交ったかるた会となった。しかし、札を見つめる眼差しは年齢も性別も関係なし。上の句が読まれると、真剣に下の句の札をさがす。上の句で札を取ると、周りからは「すごい！」と羨望の声が上がる。最年少の少年も得意の札はしっかりと狙いをつけており、奪取すると「えらい」と全員が拍手。しっかりとるの姉は常連のおばさんたちと互角に戦い、上の句で札を取れば「さすがお姉ちゃん」と、これまた歓声がおこる。初参加の男性も得意の札がたくさんあったが、札を見つけても騒がず、静かに、しかし着々と取り札を増やしていた。

かるた取りは三回行われ、その後、鏡開きのぜんざいがふるまわれた。その頃には全員が打ち解けて、かるたの話に花が咲き、世代を超えた和気あいあいの雰囲気が生れた。最後は、昭和の正月には欠かせなかったトランプでは抜きをした。ジョーカーが2枚入っていたため、上がったもん勝ちのゲームになったが、これも一興で、笑いの絶えない正月らしい楽しい時が流れた。

《節分に向けて鬼面作り》

節分も冬の重要な行事だ。そこで、冬休みを利用して、一月五日にワクワク子供塾を開催。近所の子供たち七人が段ボールを使った鬼面作りに挑戦した。



鬼面作りは、昨年八月の子供塾で段ボール工作の指導をしてくれた沖本さんが担当した。沖本さんがあらかじめ準備した長方形の段ボールに色を塗り、段ボールで作った目を貼り、頭にも飾りをつけるのだが、それぞれに個性が際立つユニークな作品に仕上がった。

その後、かどやスタッフの指導のもと、全員でホットケーキを焼いた。いちごやバナナを飾り、生クリームやチョコソースで仕上げた。ホットケーキの生地にはヨーグルトを入れてふわふわの出来映えとなり、子供たちは大満足。「楽しかった」とにこにこ顔で、鬼面を携えて、意気揚々と帰って行った。



作品展、力作目白押し!

月替わりの作品展は趣味の世界を「ソリソリ」と極めていく方々の作品を紹介している。どの分野の作品からも、作者の情熱が光り、見学者の心を揺さぶっている。年末年始にも力作が目白押しで、「すじいー」「心がなごむ」等、賞賛が寄せられた。

《かわいい!と大絶賛!》



メグこと園田恵さん制作の羊毛フェルト作品展「メグのここにこ動物園Ⅱ」は、一月四日から二十六日まで開催され、「かわい

いー」「いつまでも見ていたい」「いやされる!と大絶賛されている。

園田さんの作品展は平成三十年九月に開催され、大好評だった。



た。今回は、今年の干支にちなみハムスターやパンダネズミ、カピバラ等のネズミを中心に、リスやモモンガ等愛らしい動物約五十体が展示された。さらに、新たな試みとして、



ルービックキューブとカメレオンを合体させた「ルービックカメレオン」や消しゴムとカエルが

ドッキングした「消しゴムガエル」等、「多様性」がテーマの独創的な作品も四点出展された。



これらは、ネズミ

等のかわいい作品群とは一線を画すが、園田さんの強いメッセージが込められている。「奇妙な姿をした生き物たちは、人の心や生き方を具現化したものです。辛いことがあったり、障害をもっていたり、人は様々な境遇に置かれています。どんな状況でも這い上がって自分の生きる道を必死で歩んで行くことを表現したかったんです。

実は、園田さんには自閉症スペクトラムという障害があり、長年苦しんできた。羊毛フェルトで作品を作り始めたのは約四年前からだ。作品作りを通じて多くの人と出会ったことで、ありのままの自分を受け入れてくれる人たちがいることを実感。自分を変えようと、今回の展示を契機に障害を公表することを決意した。作品にも心を克服し前進しようという姿を投影したかった。そつだ。

公表すると決めたものの、随分悩んだようだ。今は「隠し事をしなくてよくなったので、心が楽になりました。社会に役立つ人間になりたい」と、笑顔で話してくれた。

《きらりと光る熟年パワー!》

十二月は「草木染シルク手織りと古布創作服の二人展」が行われた。近所の手芸サークルで出会い、親交を深めてきた小林宜子さん(七十六才)と福田雅子さん(八十才)の作品展だ。小林さんの作品は、草木で染めた麻や絹を手織りしたもので、藍染のタペストリーの中には畳一畳を超える大作も含まれていた。色鮮や



かな大盤のママフーリや手織りの風合いが優しいマ

フラワー等、約五十点が展示された。小林さんは、モダンアート協会会員でもあり、東京都美術館のモダンアート展への出品をはじめ、県内外で精力的に個展を開いている。

一方、福田さんは和服の生地を再利用したチュニックやバスト等の洋服に加え、バッグや帽子等、約二十点を出展した。福田さんは、四十年近く油絵を描いており、色彩感覚が抜群だ。古布の傷んだ部分は刺し子で補強したり、古典的な模様の布をパッチワーク風に組み合わせたり。古布をモダンな作品として見事によみがえらせている。

熟年パワーの斬新な発想が、見学者をつなげていた。

かどやで国際交流 豪華客船がやって来た!

大型クルーズ船での船旅ブームに乗って、昨年は鳥羽港に外国船籍の豪華客船が7回入港し、かどやにも通算で三百人を超える外国人が訪れた。

「飛鳥II」や「ぱしふいっくびい」なす」「にっぽん丸」等、日本船籍の大型船は以前から入港していたが、外国船籍の入港は一昨年十月九日のダイヤモンド・プリンセス(以下DP、十一万五八七五トン、客室定員二千七百六名)が初めてだった。鳥羽市は、伊勢市や志摩市と共に鳥羽湾クルーズ船誘致受入協議会(会長:中村鳥羽市長)を立ち上げ、市の観光課や観光協会、商工会議所等と準備を重ねていた。

そこで、かどやも外国のお客様に鳥羽で楽しい思い出を作ってもらおうと、同協議会の協力を得ながらボランティアを含むスタッフ全員でかどや独自の豪華客船歓迎対策を練った。

《日本らしさを盛りも...》

かどやでは毎月、裏千家の千草先生が茶道教室を開いているので、日本ならではの体験は茶道でと決め、同教室の皆さんに協力を依頼した。着付け体験や琴の演奏も加え、お土

産用に和服地で作ったかわいい小物等も手芸教室の大屋先生が沢山作ってくれた。

昨年のDPの初入港は桜満開の四月四日で、晴天に恵まれ最高のお花見日和。そのため城山には大勢の外国人が押し寄せたが、マリントーミナルから遠く、知名度の低いかどやに足を運んでくれたのは、三十七名で、茶道体験は十五名、着付けに至っては一名のみと、日本らしさを盛り作戦は不発に終わった。

《ついに、入館者百人突破!》

一回目の反省を踏まえて、それ以降の体験は茶道のみとし、スタッフの一部は鳥羽水族館付近まで出向き、外国人を見つけてはかどやをPRして誘導した。役所や商工会議所等のスタッフはマリントーミナルで二千人を超える乗船客に観光案内を行い、市内の見どころとしてかどやも紹介してくれた。その甲斐あって、回を重ねること

にかどやの入館者も増え、昨年最後の入港となった十二月二十四日には百三名が入



館し、茶道体験にも三十四名が参加した。

英語が話せるスタッフは少ないが、身振り手振りでもおもてなしの心を伝えた結果、お客様からは「楽しかった」「来てよかった」等うれしいコメントを多数いただいた。

今年も一月十九日を皮切りに、DPの入港が五回予定されている。スタッフ達は「英会話を勉強しなきゃ」と国際交流に意欲を燃やしている。

《スタッフ奮闘記》 言葉の壁を越えるには

ポケットに代表される携帯音声翻訳機が大活躍している。

茶道体験を指揮している千草先生も最近ポケットクを購入。「まだ使い方がよく分からへん」と言いながら、大好きなおもちやを手にした子供のように嬉しそうで、それがかわいいと外国人に大好評だった。

恐るべし!留学生の語学力

千草先生が鳥羽商船学校の留学生に茶道を教えている関係で、東南アジアからの留学生三人が通訳で活躍してくれた。日本語も英語もペラペラで、茶道はもちろん、館内の案内も一度説明を聞いただけで、堂々とガイド役をこなす。「頼りになるわ!」とおばさんスタッフ達の人気の的だった。

あやしい日本人?

「古い日本家で茶室で茶道体験できるかどやに行きませんか」と鳥羽水族館や近鉄中之郷駅付近まで出向いて、かどやを紹介するが、会釈するだけの人や「いいわね、あとで行くわ」等の返事は返ってくるが、かどやとは反対方向に去る人等、おいそれとは来てもらえず、がっかりすることたびたびあった。

しかし、異国の地で、にこやかに話しかけてくる人がいたら、善良そうに見えても、警戒するのは当然だ。そこで、かどやPR隊は、彼らの不安解消のため「登録有形文化財かどやのスタッフです」と英語で書いたカードを胸にぶら下げることにした。それでも、スルーされてしまったのは、なぜ?

番外編: DPは長崎生まれ

ダイヤモンド・プリンセスは、世界最大級のクルーズ客船運航会社の傘下にあるプリンセス・クルーズ(本社はアメリカ・カリフォルニア州)に属しているが、建造されたのは日本の三菱重工業長崎造船所だ。海上投棄を一切しない廃物処理装置を備える等、環境に配慮した設計でも注目が集まっている。



師走のかどや 「コンサートぜんまい！」

かどやでは、月一回は「コンサートを実施すること」を目標にしている。ところが昨年十一月には、ジャンルの異なる「コンサート」がなんと四回も行われた。

明治三十年代製造の「長尾オルガン」によるクリスマスコンサートと、結成三十年の老舗フォークバンド「ハマグチバンド」とかどや専属のおばさんバンド「ゼンザーズ」による「年忘れコンサート」は、かどやの一般公開が始まった平成二十五年から師走恒例の「コンサート」として実施してきた。今年はさらに、ジャズと津軽三味線の演奏会が加わったのだ。



十二月一日には「クリスマスがやってくる」と題して、宮崎義明率いる「ジャストリオ」(テナーサクソフス、ベース、キーボード)が「ホワイトクリスマス」をはじめ、クリスマスに困んだ曲を演奏し、一足早くクリスマス気分を届けてくれた。同バンドは、伊勢市を中心に活動しているが、鳥羽にもジャズを根付かせようと、一昨年は三回、昨年は五回、演奏してくれた。



四日は、四日市市に本部を置く津軽三味線和楽会の伊勢志摩地区の発表会が行われた。平成二十九年から毎年開催されている。津軽じょんがら節や花笠音頭等十曲が演奏され、津軽三味線ならではの明るく力強い音色が会場に広がった。

十六日は、ハマグチバンドが懐かしいフォークソングの曲に加えて、二胡やハーモニカ、絵本とキーボードの弾き語り等、メンバー個人が得意とするパフォーマンスも披露した。ゼンザーズは、毎年同じクリスマスソングを会場の人たちと一緒に歌い、歌う楽しさを共有した。

二十二日の長尾オルガンコンサートは、例年どおり異耕一さんの演奏に合わせて、ソプラノ歌手の青木美和さんが透明感のある柔らかい声で「アベマリア」や「メモリー」「アメージンググレイス」等を歌い、昨年の昼下がりコンサートをさわやかに締めくくってくれた。



時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

◆◆貸部屋の案内◆◆
かどやを有効にご利用いただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などに活用ください。詳細は、かどやへ。
電話〇五九九―二五八六八六

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 平成31年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

平成30年度は351名の方にご登録いただきましたが、31年度は令和2年1月15日現在で299名と、昨年より約50名少ないのが現状です。一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、スタッフ一同日々努力を重ねております。登録がまだの方は是非ご登録くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成31年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751